

都道府県柔道連盟（協会）会長・安全指導員各位

重大事故総合対策委員会

委員長 磯村 元信

（公印省略）

年度はじめにおける事故防止対策の周知徹底について

平素より本連盟事業にご理解、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

新年度に入った5月～7月が初心者の重大事故の最も発生しやすい時期となります。また、コロナ禍以降、頭部、頸部の重大事故の発生する割合が高く（表1参照）なっています。昨年度は、試合中の脳しんとうや頸部の事故などが多数発生しました。今後、地区大会などの試合も増えてくる時期を迎え、各団体、連盟の年度初めの総会や会議等において、改めて以下に示す事故防止対策の周知徹底をお願い申し上げます。

○初心者の重大事故防止の徹底事項

- ・ 初心者には少なくとも3ヶ月程度は高い位置からの投げ込みを行わせない。
特にこの時期は初心者に大外刈りの投げ込みを受けさせない。
- ・ 大外刈りの高い位置からの投げ込み（受の両脚が宙に浮くような投げ込み）、および投げ技の乱取りは少なくとも5ヶ月程度経過してからとする。
- ・ 初心者は少なくとも6ヶ月程度は練習試合や試合に参加させない。

○近年（コロナ禍以降）における重大事故防止の留意点

- ・ 子どもの深刻なスポーツ離れなどの影響により従前に比べて基礎体力や筋力、受け身が十分に備わっていない状況があり、頭部や頸部の重大事故の発生が危惧される。
- ・ 基礎体力や筋力、受け身が十分に備わっているかを把握して無理のない範囲で練習や試合を行わせる。特に、子どもや初心者の練習や試合には特段の配慮を行う。
- ・ 頸部重大事故がトップ選手を含む経験者に多く発生している。首周りの筋肉を鍛えていても、勢いよく畳にダイビングやヘッドディフェンスで突っ込めば重大事故に至る危険がある。頸部重大事故の防止は、取が頭を下げた低い姿勢で内股や払腰などをかけないこと、ヘッドディフェンスをしないこと、受の頸部が取の脇下などにロックされた状態（受が後頭部を上から押さえつけられて頸椎を屈曲させられた状態）で立ち技や捨て身技をかけないことなどを日常の練習から徹底する。また、試合でこうした頸部の重大事故につながるような状態になった場合は早めに「待て」をかけることが重要である。

○大会運営（参加）上の留意点

- ・コロナ禍以降の大会では頭部、頸部の事故が多発していることを事前に周知し、大会運営者、大会参加者共に頭部、頸部の事故防止の意識を高める。
- ・頭部、頸部の事故が発生した場合に備え、改めて救急処置や救急搬送の手順や対応策を確認しておく。また、大会に参加する指導者は、保護者の連絡先の確認を徹底し、救急搬送が必要な場合、救急車に同乗できる人材を確保するなど万々に備えた準備を整えておく。

表1 近年の事故状況

年度	報告事故件数	脳しんとう	頸部事故	急性硬膜下血腫	重大（準重大）
2018	27	15	5	1	1
2019	21	13	1	3	3
2020	11	8	2	0	0
2021	8	7	1	0	0
2022	15	7	2	5	3
2023	18	9	7	1	3

安全指導、事故防止の冊子、映像資料等の活用についてのお願い

本連盟では「長期育成指針」に基づいた安全講習資料「柔道重大事故ゼロのために」、柔道の安全指導「柔道の未来のために」（第6版）、危険な場面映像資料（少年大会特別規程編を含む）などの安全指導、事故防止の標準となる教材資料を作成しています。総会、大会準備の会議、研修会、大会等の機会に、こうした資料を活用して安全指導、事故防止の知識・理解を深め、事故を未然に防ぐための共通認識を高めて頂きたいと思っております。

なお、安全指導、事故防止の資料等のお問い合わせは全柔連事務局へご連絡ください。また、**頭部外傷・脳しんとう・頸部外傷・熱中症・その他の緊急入院を要した事故発生時には必ず所定の様式で全柔連への事故報告**をお願いします。

重大事故の傾向を分析して対策を講じ、新たな事故を未然に防ぐためにもご協力をよろしく願います。詳細・書式は下記全柔連ホームページを参照してください。

[事故報告書について | 全日本柔道連盟 \(judo.or.jp\)](http://judo.or.jp)

以上